探究スキルラーニング　デザインシート

タイトル		打合せ日		±

授業者				探究スキル		
科目名						
単元						
使用教科書・教材						
時間数 中高区分/学年		中学校	1年	教科		

タグ	観点（到達目標）	A	B	C

☐ ルーブリック　☐ 評価フォーム　☐ フィードバック　☐ 教材・写真保存

授業内容

時数	内容	実施日	クラス	時限	場所	GS
1		± ±				
2		± ±				
3		± ±				
4		± ±				
5		± ±				
6		± ±				
7		± ±				
8		± ±				
9		± ±				
10		± ±				

ティーチング・ポートフォリオ

改善のための振り返りメモ欄です。活動中の生徒のつまずき、教員自身の気づき、改善案などを記載しておくと次回に役立ちます。

打ち合わせメモ

・学習のねらいは？
・活動の形式は？個人・ペア・グループ
・成果物の内容は？
・ルーブリック提示、自己評価の時間は確保されている？

図書館の支援		
	☐	資料提供
	☐	資料増強　[　　] 冊程度
	☐	ワークシート・情報カード提供
	☐	学び方スキル指導[　　]
	☐	ブックトーク・本の紹介等

探究スキルラーニングデザインシート使用例

※実際にはGoogleスプレッドシート上で運用しており、教科を問わず全教員がアクセス可能にしています。
教材やブックリストへのリンクを設置するなどクラウドベースで活用しています。
ティーチング・ポートフォリオ欄には授業者が改善すべき点や生徒の反応などを書き残し、授業改善をはかっています。

探究スキルラーニング　デザインシート

タイトル	THIS IS MY QUOTE	打合せ日	2021/04/30	金

今回の目標は「参考文献を正しく書くこと（情報リテラシー）」と「メモを見ずにスピーチができること（表現）」です。
生徒は「英語の名言」を本で探し、お気に入りのものを見つけ、それについてスピーチをします。参考にした本は「参考文献」として正しくGoogleフォームに記入・回答しなければいけません。

参考文献の書き方は中学生のときにも教えていますが、前回教えた時からだいぶ時間が経っていることと、外部から新しく入った生徒がいることから、毎年この時期にもう一度参考文献を正しく書くことの大切さから教えるようにしています。
英語科として、高校1年生には「自分が好きなもの」を英語でどんどん表現（アウトプット）していって欲しいと考えています。そこで「英語の名言」をきっかけとしてスピーチをするこの授業を考えました。ただ、事前に作った英文を見ながら棒読みするだけでは相手に共感してもらいづらいので「メモは見ないように」と指示しました。所要時間は準備から発表まで3時間しかないので、複雑な英語や長い英文にしなくて良いことも伝えました。
授業後に行ったアンケートでは、「参考文献の書き方の復習ができた」「人前で臆せず話せた」といった意見や、「自分にはまだ語彙力が足りない」といった気づきを答えている生徒がいました。

授業者	平尾	石田	Justin Alison	探究スキル	情報リテラシー	5
科目名	コミュニケーション英語Ⅰ				表現	16
単元	なし					
使用教科書・教材	なし（オリジナル教材）					
時間数 中高区分/学年	3時間	高等学校	1年	教科	英語科	

タグ	観点（到達目標）	A	B	C
5	仮説を検証するために収集した情報を適切に管理することができる	情報源を正しく、漏れなくgoogleアンケートフォーム」に記録・回答している。（著者名『書名』出版社名発行年、ページ数）	情報源の記録方法が間違っている。Ex:順番が違う。書名に『』がない。不要な情報がある（発行月日・株式会社等の団体名称）	情報源の記録に漏れがある。Ex:出版社名が抜けている。
16	成果物を使って共感を得る発表をすることができる	繰り返しや言い直しをほぼすることなく流暢に話すことができる。	通常は途切れることなく話せるが、繰り返し、言い直しやためらいが見られ、かつまたは、話し続けようとするとスピードが落ちる。	言葉の前にたいてい長い間隔があく、メモをほぼずっと見ている。
	#N/A	speaks fluently with only rare repetition or self-correction *IELTS Speaking Band Description: Band Score 9 (Fluency and coherence)	usually maintains flow of speech but uses repetition, self correction and/or slow speech to keep going *IELTS Speaking Band Description: Band Score 5 (Fluency and coherence)	pauses lengthily before most words OR almost always look at their work sheet read it *IELTS Speaking Band Description: Band Score 2 (Fluency and coherence)
	#N/A			

☑ ルーブリック　☑ 評価フォーム　☑ フィードバック　☑ 教材・写真保存

授業内容

時数	内容	実施日	クラス	時限	場所	GS
1	導入・ルーブリック提示（5分以上）→実際には15分ほどかかった。 司書による参考文献の書き方レクチャー（5分） 本で名言探し（20分以上） ＊googleアンケートフォームに参考文献を記入させる→日本人教員がチェックし、「情報リテラシー」を採点。 ＊「名言探し」の時間は、生徒の半分は本探し（＋奥付と該当ページを写真に撮る）、残り半分は自己紹介の文を考えさせ、テレコで行う。	5/10　月		6限	プレゼン LC	5
2	自己紹介（SVOCの文）も含めてワークシートを完成させる→必要な場合はNLT check→発表に向けて練習 冊子回収 ＊参考文献を未提出の生徒は必ずこの日までに提出させる。	5/11　火	Adv Std	1限	各教室	5
3	ペアで発表練習→発表（終わるごとに冊子回収）→自己評価 ＊NLTは小ゼミで発表を聞きながら「表現」を採点。後日見返すために動画で撮影。 ＊事前に採点済みの「情報リテラシー」と合算してフィードバックシートを作成。	5/12　水	A B	3限	各教室 小ゼミ（発表）	16
4		土 土				
5		土 土				
6		土 土				
7		土 土				
8		土 土				
9		土 土				
10		土 土				

ティーチング・ポートフォリオ

改善のための振り返りメモ欄です。活動中の生徒のつまずき、教員自身の気づき、改善案などを記載しておくと次回に役立ちます。

5/10（月）のプレゼン・LC使用は届出済み。
googleアンケートフォームだと教員側が編集しやすい。生徒は　1回だけしか送信できないので、送信前によく確認させること。
日本人教員が採点をし、間違ったところは正しいものを教えるために、なるべく早くスプレッドシートで生徒にフィードバックをする。
（情報リテラシーの採点結果は 5/12までにNLTに渡しておき、当日の「表現」結果とともにその場でフィードバックシートを書いてもらう。）
本は学校にあるものから選び、自宅や自分で持っている本から名言を選ばせることはしない（参考文献の書き方が正しいかどうかのチェックがしづらいため）
ブックリスト
奥付画像

探究スキルラーニングについての説明は、本来であれば高1に一番最初に授業をする教科（今回ならば社会科）が行うべき。
本を選ぶ時間が 10分ではじっくり選べないため、できれば 20～30分程度、事前にレクチャーを行い、この時間は　1時間ゆっくり選んで英作文を書く作業にしたほうがいいかも。

事前にブックリストや奥付の情報が司書から共有されていたので、情報リテラシーのチェックが非常にスムーズに行えた。

小ゼミ(Red/Blue）は予約済み。後日採点を見直したい場合に備えて、当日の様子は　iPadで撮影しておく。
当日はNLTにコメントする時間はなかったため、後日コメントの記入をお願いした。時間短縮のため、同じ採点結果の生徒には同じコメントを書くこととした。

ルーブリックに訂正が必要。
B：情報源の記録内容は合っているが、書き方が間違っている。（例：カギ括弧が二重になってない。出版年に月日まで書いてある。出版社名に株式会社が入っている。）
C：情報源の記録に漏れがある。あるいは情報が不正確。（例：出版年が間違っている。著者名の漢字ミス。）

打ち合わせメモ

・学習のねらい：英語の名言を通して、英語に対する言語的興味や異文化に対する関心を持つ。
　　自分の興味・関心をSVOCを意識して英語で表現できる。
・活動の形式は：個人
・成果物の内容：①情報リテラシー（参考文献）についてはアンケートフォームで提出。
　　②発表自体はNLTの前で、一対一の対面形式で行う。
・ルーブリック提示、自己評価の時間は確保されている？：はい

図書館の支援	
☑	資料提供　　書籍
☑	資料増強　［　20　］冊程度
☐	ワークシート・情報カード提供
☑	学び方スキル指導［　参考文献の書き方・奥付の見方　］
☐	ブックトーク・本の紹介等

生徒からの質問：
・著者が複数いる場合
・？は半角・全角
・ページ数の書き方は（40p,p40,40ページなど表記ゆれ有り）
・ページ数が複数にわたる場合の書き方は（pp146-17）